

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書

平成15年度国庫補助事業報告書

丸山古墳周辺試掘調査報告書
詳細分布調査概要報告書Ⅲ

2004. 3

観音寺市教育委員会

例 言

1. 本書は、観音寺市教育委員会が平成15年度国庫補助事業として実施した、観音寺市内遺跡発掘調査事業の①丸山古墳周辺試掘調査、②詳細分布調査の概要報告書である。
2. 上記①の丸山古墳周辺試掘調査は、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ四国による電気通信施設（携帯・自動車電話）建設に係る試掘調査で香川県観音寺市室本町字西丸山690番を対象とした。
②の詳細分布調査は、香川県観音寺市栗井町、木之郷町、柞田町、伊吹町を対象地区とした。
また、重点調査地区として栗井町、木之郷町にまたがる母神山古墳群を対象とし、字三谷地区の瓢箪塚古墳以東の地形測量を中心に調査を実施した。
3. 発掘調査、調査地区内の分布調査及び本書の執筆・編集は、観音寺市教育委員会事務局生涯学習課 文化振興係 総括主査 久保田昇三が担当した。また、出土遺物の整理、実測、トレースは長井真由美が担当した。
4. 挿図の一部に観音寺市全図其の1・其の2(1/10,000)、観音寺都市計画図9、10、12、13(1/2,500)を使用した。図面の方位は磁針方位で示し、方位の表示のないものは図面の上方向が北を示す。また、図面の縮尺はすべてスケールで表示した。
5. 母神山古墳群の表記については、同じ母神山でも字名が栗井町分では「母神」、原町分では「母神」、木之郷町分では「上羽上」・「下羽上」となっているが、古墳群名として混乱をまねかないために市教委では「母神」に統一している。
6. 出土遺物は観音寺市郷土資料館で保管している。
図面・写真等は観音寺市教育委員会事務局で保管している。
7. 本事業の実施にあたっては、室本町新田自治会 会長 小林茂文氏、宗教法人 丸山神社 代表役員 西田準一氏、請川雄三氏、磯野秀和氏、藤田芳種氏、小林史朗氏、大西治郎氏、発掘調査に携わった牧野巧氏、松岡豊史氏、坂田昇氏、西山秋久氏、山本正治氏にご協力を頂いた。
記して、謝意を表します。

目 次

例言・目次

	頁
I. 丸山古墳周辺試掘調査	
(1) 調査に至る経緯と経過	1
(2) 調査対象地区の概要(立地と環境)	1
(3) 調査結果	1
◆丸山古墳周辺試掘調査トレンチ配置図	2
◆試掘調査トレンチ写真	2
II. 詳細分布調査	
(1) はじめに	3
(2) 調査対象地区の概要(立地と環境)	3
(3) 分布調査結果	4
①藤目山古墳群	
②上野古墳群	
③岩鍋遺跡	
④藤の谷遺跡	
⑤藤目城跡	
⑥久米塚古墳	
⑦久米東塚古墳	
⑧久保田塚古墳	
⑨名所塚古墳	
⑩上母神8号古墳	
⑪下母神1号～6号墳	
⑫高塚	
⑬小天王塚古墳	
◆参考資料(下母神古墳群調査地区略図、小天王塚古墳東側石室平面実測図)	7
◆調査地区内遺跡一覧表	8
◆調査地区内遺跡分布図(1)【柞田町山田～柞田町八丁付近】	10
◆調査地区内遺跡分布図(2)【柞田町八丁～粟井町竹成付近】	11
◆調査地区内遺跡分布図(3)【粟井町出晴～粟井町奥谷字北峯付近】	12
◆調査地区内遺跡分布図(4)【粟井町奥谷字北峯～徳島県境付近】	13
◆調査地区内遺跡分布図(5)【伊吹町、股島、円上島】	14
4. 重点調査地区	
(1) 重点調査地区の概要	15
(2) 調査結果	
◆母神山古墳群字三谷地区周辺地形図	16
①三谷1号墳	15
②三谷2号墳	15
③三谷3号墳	15
④三谷4号墳	17
⑤三谷5号墳	17
⑥三谷6号墳	17
⑦三谷7号墳	17
⑧三谷8号墳	17
⑨三谷9号墳	17
⑩三谷10号墳	17
⑪三谷11号墳	17
⑫三谷12号墳	18
(3) まとめ	18
◆母神山古墳群(字三谷、字上羽上地区)地形測量図	19
5. 写真目次	21

I. 丸山古墳周辺試掘調査

(1) 調査に至る経緯と経過

平成15年5月27日付けで株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ四国（香川県高松市天神前9番1号）から電気通信施設（携帯・自動車電話）建設予定地（約175㎡）にかかる観音寺市室本町字西丸山690番における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会を受けた。

当該建設予定地は、

- ①観音寺市指定文化財（史跡・昭和45年3月12日指定）丸山古墳から直線距離で南側約25m程度の近くであること、
- ②丸山古墳の所在する丘陵の頂上部周辺であり比較的傾斜が緩いこと、
- ③丸山古墳周辺のみならず、丘陵の上部や中腹あたりに遺物が散布していること、
- ④丘陵の南側中腹から下方にかけて字東丸山古墳群（仮称）が所在すること、

などのことがあり、丸山古墳という遺跡の持つ重要性やその性格を考えると、古墳本体のみならずそれに付属する施設や関連する遺構の所在の可能性が十分考えられることや別な遺跡の所在も否定できないことなどから、今回遺跡の有無の確認を行い開発行為に対する協議資料を得るため試掘調査を実施するに至った。

(2) 調査対象地区の概要（立地と環境）

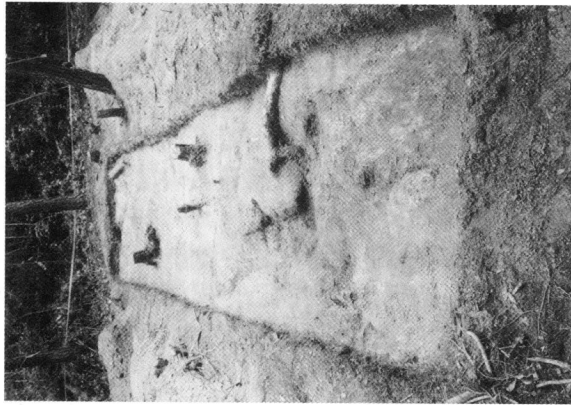
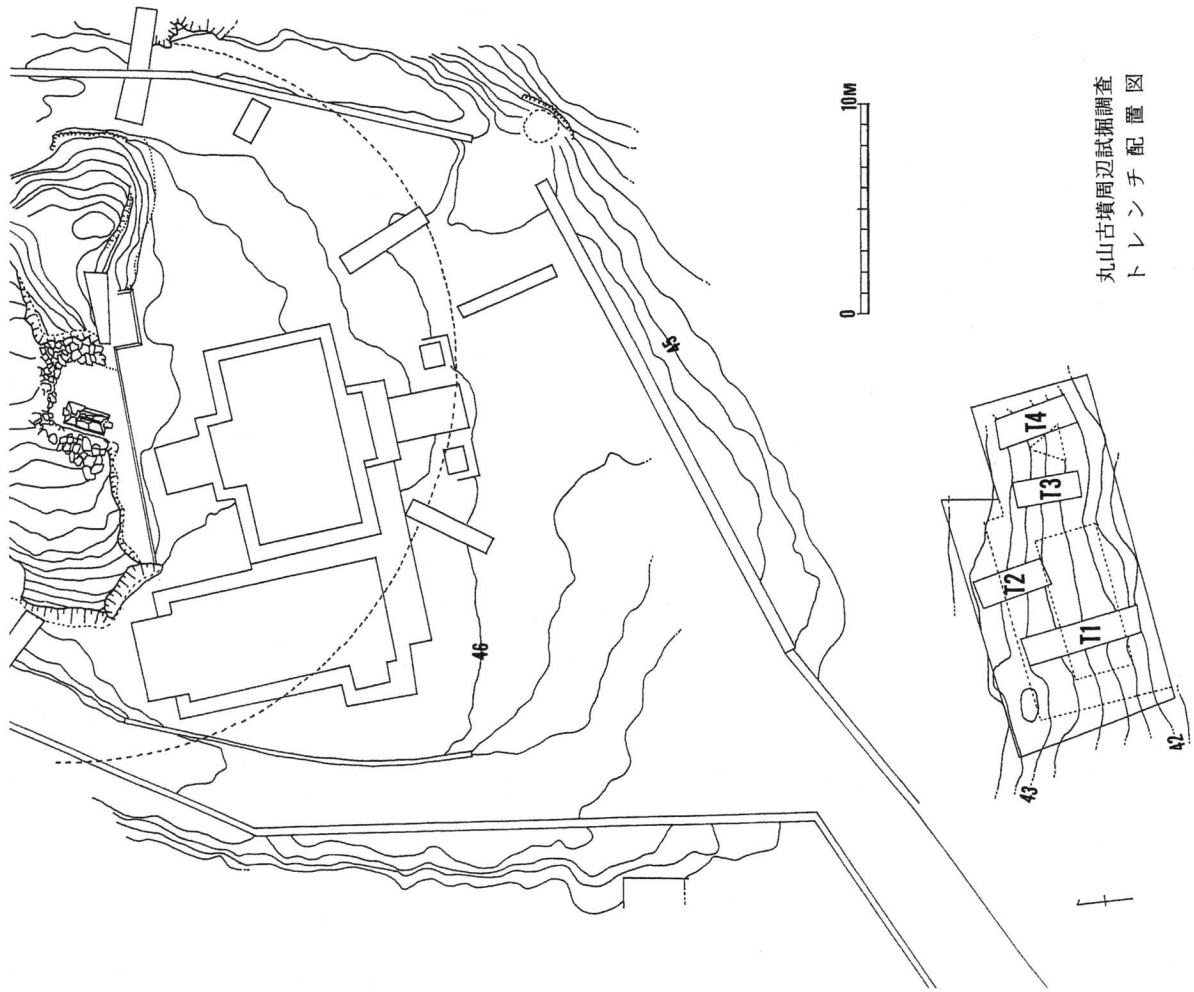
調査対象地区や丸山古墳のある丘陵は北側にある標高444.22mを頂点とする七宝山から南に延びた尾根状の丘陵の末端部分に標高約50mの高まりがあり、その頂上部に古墳が所在する。この場所は瀬戸内海の燧灘の有明浜から直線距離で約500mの比較的海に近い場所にあり、古墳の頂上部からは讃岐山脈や三豊平野、瀬戸内海が一望できる展望のよい場所に立地している。

また、この場所は丸山神社の境内となっており、墳丘の半分程度が神社建設により失われている状況があり、昭和22年、平成10、11年度には発掘調査が行われている。直径約35mの円墳には葺石が葺かれ円筒埴輪のほか馬形埴輪、偶蹄目の動物埴輪、鳥形埴輪、蓋形埴輪などの形象埴輪の存在が確認されている。また、特筆すべきは、石室規模が長さ（現存長）約4m、幅（推定長）約3.7mの平面プランであることが判明し、埋納されている阿蘇溶結凝灰岩製刳抜式舟形石棺の配置や遺物の出土状況や残存している周壁の構造から想定される天井部の構造や規模などから考えると、複数人数を埋葬する5世紀中葉～後半頃の巨大な初期横穴式石室であることが推測される重要な遺跡であるといえる。

(3) 調査結果

調査期間は平成15年6月20日～平成15年7月2日の実労7日で行い、4箇所のトレンチ（合計20.63㎡）を設定し遺構遺物の確認を行ったが、トレンチ4（T4）の円筒埴輪片1点を除き遺構遺物の確認はされなかった。円筒埴輪片についても丸山神社建設やその他の開墾による転落と考えられ、当該開発地域内での埋蔵文化財の所在の可能性は低いことが確認された。

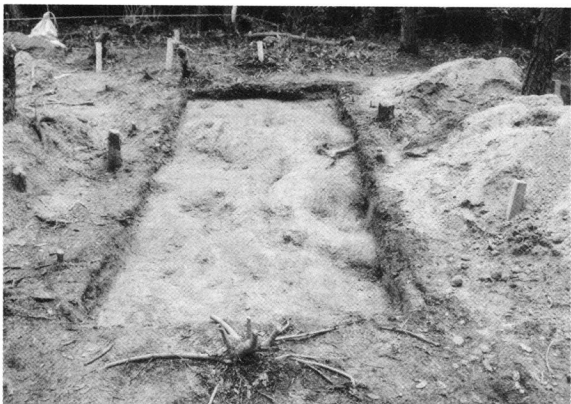
なお、県教委には平成15年7月4日付け観教委生第116号で埋蔵文化財試掘調査の結果を報告した。また、原因者には平成15年7月4日付け観教委生第115号で、試掘調査の結果と今後の取扱い（事業実施中に遺跡が発見された場合等）については文化財保護法の規定に十分配慮した措置をとる旨依頼した。



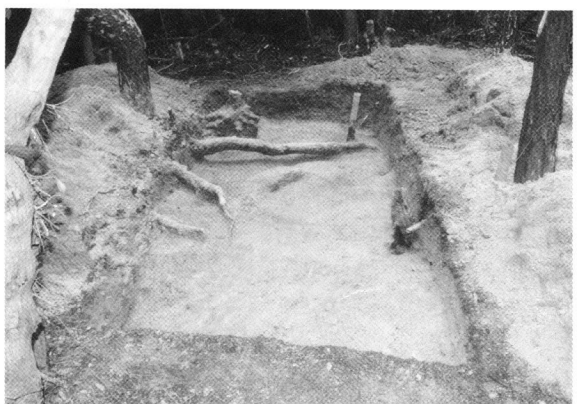
トレンチ1



トレンチ2



トレンチ3



トレンチ4

II. 詳細分布調査

(1) はじめに

本事業は、観音寺市内に所在する埋蔵文化財の位置、範囲及び性格等を把握するため詳細な分布調査を実施し、今後の文化財保護行政の基礎資料とするものである。

平成15年度においては、調査対象地域を観音寺市南部地域（粟井町、木之郷町、柞田町、伊吹町）に設定し、基本的には踏査や聞き取り調査により現地確認を行い分布調査を実施した。

また、調査対象地区内に重点調査区域を設けた。重点調査区域は粟井町、木之郷町にまたがる母神山古墳群を対象とし、踏査とあわせて字三谷地区内の瓢箪塚古墳以東の遺跡分布の未詳な部分の地形測量を行い遺跡の範囲、規模、数量及び残存状況についての調査を行った。

(2) 調査対象地区の概要（立地と環境）

今年度の調査地域は、古代讃岐国刈田郡紀伊郷（粟井町、木之郷町）、柞田郷（柞田町）に比定される地域を中心とし、それに伊吹町を加えた地域である。

ここで、調査地区を郷域に分けその概要を記することにする。

①紀伊郷（粟井町、木之郷町）

四国霊場第66番札所雲辺寺がある讃岐山脈（標高910m余り）の徳島県境から北西方向へ下り四国横断自動車道あたりまでの地域である。

粟井町の山間部（奥谷地区）はこれまでほとんど遺跡は確認されていないが、地形が山間部から平野部にかわる地域（奥谷～竹成）については弥生時代から中世までの遺跡が点在する。そのおもなものには、3口の細形銅剣が出土した藤の谷遺跡、弥生中期の集落跡とみられる岩鍋遺跡、藤目山山麓に点在する藤目山古墳群、日本三代實録に記載がある刈田氏の屋敷跡と伝えられる乳若屋敷、長宗我部氏の讃岐攻略の拠点となった藤目城などがある。

粟井神社、於（うへの）神社の二つの延喜式内社の存在も見逃せない。両社とも粟井町内にあり直線距離で約850mの距離にある。特に、延喜式によれば粟井神社は田村神社、城山神社と同じく讃岐国にある名神大社の一つとなっている。於神社については本殿が古墳の上に建設される形態をとっている。

また、前述した乳若屋敷の伝承があり、郡名にもなっている刈田氏については、以下に日本三代實録の抜粋を記しておくので参考として頂きたい。

貞観4年（862）5月

讃岐國刈田郡人直講從六位上刈田首安雄、散位從七位上刈田首氏雄、阿波博士從八位上刈田首今雄等三人、改本居、隸左京職、

貞観9年（867）11月

左京人從五位下行直講刈田首安雄賜姓紀朝臣、安雄自言、武内宿祢之裔也

仁和2年（886）5月

・前周防守從五位上紀朝臣安雄卒、安雄者左京人、助教從五位下種繼之子也、・・・安雄父本姓刈田首、讃岐國人、至于安雄、賜姓紀朝臣、・・・

次に、粟井町、木之郷町、原町、池之尻町にまたがる母神山古墳群については、6世紀前半～7世紀代にかけて約70基を越える古墳群が形成されている。盟主的な古墳には瓢箪塚古墳（前方後

円墳)や罐子塚古墳(円墳)があり、このほかこれまでに発掘調査が行われたものには千尋神社1・4・5・6号、久米塚、久米東塚、黒島林1・5・6・7・8・13・14号、上母神4・8号、下母神古墳群などがある。

② 柞田郷(柞田町)

現在の柞田町の全域に該当し、瀬戸内海(燧灘)沿岸部から先述の四国横断自動車道付近にかけての地域である。柞田町の中央部には粟井町から流れる粟井川と大野原町から流れる柞田川が合流した柞田川が地域を二分するように瀬戸内海に流れこんでいる。

この地域内には南海道の駅家がおかれていたことが柞田の名称から考えられている。具体的な駅家の位置は確認されていないが、字山王の日枝神社付近が候補地として説明板が設けられている。しかし、香川県史に掲載されている推定南海道の延長線上にはなく800m程離れている。なお、柞田町字十宮からは奈良時代と思われる陶印が出土していることは何かの示唆をあたえてくれているのではないだろうか。

地域内の古墳については、その数は多くない。現在では存在しないが、字広庄の高塚からは剣、耳環や円筒埴輪等が出土している。字土井之内では小天王塚や高速道路の調査時に発見された土井之内古墳などがありこのほかにも何基かの古墳があったようである。

また、四国横断自動車道関連で昭和61年～62年にかけて柞田八丁遺跡の調査が実施されている。字十宮、字土井之内にかけての所に6世紀末から近世にかけての竪穴住居、掘建柱建物等の遺構が確認されている。

(3) 分布調査結果

分布調査にあたっての基本作業を次の2項目とした。(平成12年、14年度と同様)

- ① 現在まで確認されている遺跡の現地確認を行い位置等の再検証を行う。(周知の遺跡の再検証)
- ② 文献等はあくまでも参考程度にし、踏査や聞き取り調査を中心に調査を実施し、新しい遺跡の確認を行う。また、遺跡とは断定できないが、参考となる場所についても記録する。

調査結果を調査地区内遺跡分布図(1)～(5)、調査地区内遺跡一覧表にまとめた。以下に図表の説明を加える。

◎ 調査地区内遺跡分布図

- ・ 字ごとに境界線を入れ、各字名を付した。
- ・ 遺跡の位置は●で示した。
- ・ 遺跡の推定範囲は破線で示した。
- ・ 図は、観音寺市全図其の1・其の2(1/10,000)を使用した。報告書掲載のものは任意の倍率で縮小している。

◎ 調査地区内遺跡一覧表

- ・ 表左欄の遺跡番号と分布図番号は対応している。

以下に、おもな遺跡の概要を記することにする。

① 藤目山古墳群【地図・表番号2】

おおむね二か所に分かれて存在する。その一つは粟井神社のすぐ裏手辺りにある。そのうち一基は道路建設のため墳丘の半分以上が失われて、石室の一部の石材が露出した状態である。直径約10

mの円墳と思われる。加えてこの付近にあと2基ほどあると思われる。もう一つは藤目山西側の山麓にあり大野原町との境界付近にある。横穴式石室の片方の側壁と墳丘の半分が残存しているものと近くにあと2基ほど所在すると思われる。

②上野古墳群【地図・表番号5】

かつては2基存在していたようであるが、現在は一基のみである。於神社の本殿が墳丘の上に建てられている。横穴式石室を持つ直径1.5mほどの円墳と思われる。

③岩鍋遺跡【地図・表番号9】

藤の谷遺跡から約600m余り離れたところにあり、岩鍋池の西側に舌状の地形が池側にのびている場所である。集落跡と考えられるこの場所ではこれまで具体的な発掘調査は実施されていないものの、石鏃、石包丁、石斧などの石器類や弥生土器などが時々発見されていたことによりその存在は知られていた。

④藤の谷遺跡【地図・表番号13】

粟井町の菩提山の西山麓の標高86m付近にあり、明治33年に市内新田町の大喜多氏により銅剣三口が発見された場所である。井戸の用材を探していたところ、それに適当な石が累積されているのを見つけ、この石積みを取り除いているうちに銅剣が重ねて置かれているのを発見した。現在は県指定有形文化財に指定され、観音寺市郷土資料館に寄託されている。

⑤藤目城跡【地図・表番号14】

長宗我部氏の讃岐攻略の拠点となったとされる城主斎藤下総守の城で、標高136.5mの主郭は17m×7.8mの平坦地で、北側を除く縁辺部で土塁状の高まりがあるが、現在、ミニ八十八カ所が設けられているためかもしれない。主郭の東側には曲輪が2段あり、南側にも曲輪が1段設けられその西南側には堀切がある。

⑥久米塚古墳【地図・表番号18】

明治38年1月に香川県師範学校の荻田元広氏により発掘調査が実施され、平成7年度に市教委が再調査を行った。直径約2.1mの円墳で横穴式石室を採用し6世紀後半頃の築造とみられる。玄門立柱が石室内部に突出していることや、羨道中央部の羨道内仕切石により区切られた玄門側の玉砂利が敷かれた床面の構造が複室構造を連想させる形態であり本石室の特徴である。石室の天井石は失われているが、南南西に開口し石室全長6m、玄室長3m、玄室奥壁幅1.8m、羨道長3m、羨道幅0.88mで排水溝、墓道なども確認されている。

⑦久米東塚古墳【地図・表番号19】

久米塚と同じ尾根上に立地し約25m離れた4m程低い位置にある。平成8年に市教委が残存状況を確認するために調査を行った。玄室の天井石と思われるものが落下しており玄室の床面の検出は行っていない。直径約2.1mの円墳で、石室は両袖式の横穴式石室で南方向に開口し、全長約9m、玄室長約4.8m、玄室奥壁幅約1.64m、羨道長約4.2mの規模で母神山古墳群中確認されているものの中で第2位となる。久米塚と同様玄門立柱が内側に突出し、玄室の側壁がゆるやかな胴張りを呈することが本石室の特徴である。

⑧久保田塚古墳【地図・表番号41】

名所塚から南に下りながら延びた尾根の突端の標高50m余りのところにある。明治38年1月

に土地所有者が発掘した記録が前述の荻田元広氏の記録「讃岐史料雑之一」にある。これに掲載されている略図によると両袖の横穴式石室で玄室長1丈位（約3m）、玄室奥壁幅5尺余（約1.5m）、玄室高6尺余（約1.8m）、羨道長8尺位（約2.4m）の規模である。出土品には、耳環4（金環2を含む）、勾玉、管玉、ガラス玉、須恵器（台付壺、提瓶など）、銅釧、馬具類、鉄刀などがあるが、鉄器と土器類は失われている。墳丘直径は約20m程あり、その中央部は陥没しておらず石室自体は残存していると思われる。

⑨名所塚古墳【地図・表番号43】

標高74m余りの母神山南側部分では最高所に位置する古墳である。以前は天井石が露出していたり石室内部に出入りができていたようである。出土遺物等は知られていないが、恐らく盗掘にはあっているだろう。樹木が密生しておりその規模は測りかねるが直径約20mの円墳であると推測される。また、名所塚の北側に尾根が延びているが、それが名所塚のすぐ近くでいったん高まりをみせる場所があるので、今回、字片山2号墳とした。

⑩上母神8号古墳【地図・表番号64】

三豊総合運動公園拡張事業（自由広場）で確認された墳丘直径約19m（推定）、周溝を含めた墓域直径は約27m（推定）の円墳である。一つの墳丘に二つの横穴式石室を有し、石室配置は第1石室が西北西、第2石室は東北東方向に開口し両者の角度は約125°ある。両袖式とみられる二つの横穴式石室には規模、構造に明確な差がある。第1石室は全長6.5m、玄室長3.4m、玄室奥壁幅1.6m、第2石室は全長3.8m、玄室長2.6m、石室奥壁幅1.2mである。両石室間の土層の状況及び周溝の平面プランと石室の配置状況の関係から、二つの石室は同時に構築されたものと考えられる。なお、築造時期は6世紀末～7世紀前葉のものと思われる。石室のみ移築保存。

⑪下母神1号～6号墳【表番号66～71】

昭和52年度に調査された古墳群である。六基の古墳と溝状遺構などが確認されている。1号墳は横穴式石室、2号墳は竪穴式石室、3号墳は横穴式石室、4号墳は不明、5号墳は横穴式石室、6号墳は不明である。（後段の下母神古墳群現地説明会資料掲載の調査地区略図を参照のこと）

⑫高塚【地図・表番号78】

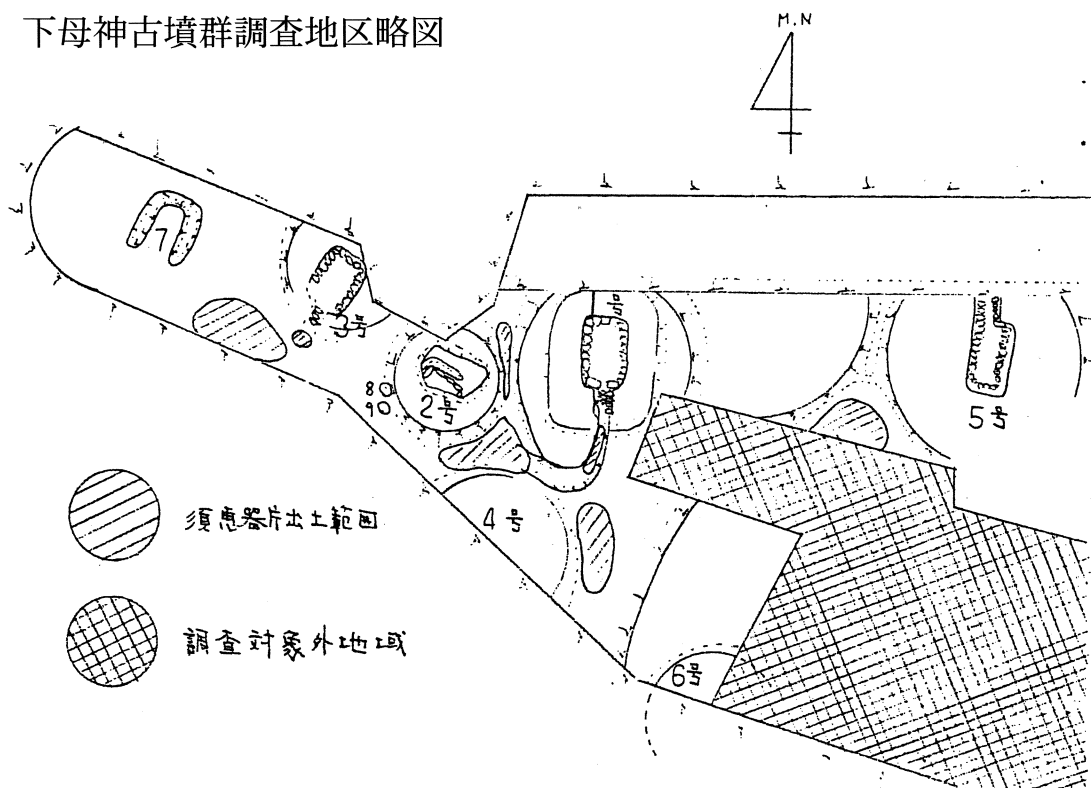
大正4年頃作成された柞田村誌にその掲載がある。それによると、「小サキ丘ノ如ク土ヲ盛ラレタル一畝餘ノ廣サノ塚アリタリ……青年之ヲ開墾ス然ルニ塚中ニ一ノ石棺如キモノアリテ中ニ一振ノ劔、銅ニ金ノ象眼ノ耳環三個古代風ノ土器六十個位堀出ス……亦此附近ノ田面ヲ高塚ト云フ」とある。現在は盛土もなく平坦な水田となり農用地として耕作されており、土地の片隅に供養のためか石碑が建てられている。なお、取り除かれた埋葬施設の石材等は近くのウガミ神社に運ばれたようだ。

⑬小天王塚古墳【地図・表番号84】

墳丘には「小天王之御跡」の石碑があり、昭和61年に横穴式石室が確認されている。当時の記録では墳丘の東側と西側に石室があり、西側の石室の詳細は不明であるが東側の石室は略図が残されている。それによると、石室現存長約4m、石室幅0.65～1.2mの規模であることがわかる。墳丘は周囲が削平されているが直径約20m（推定）程度の円墳ではないかと思われる。

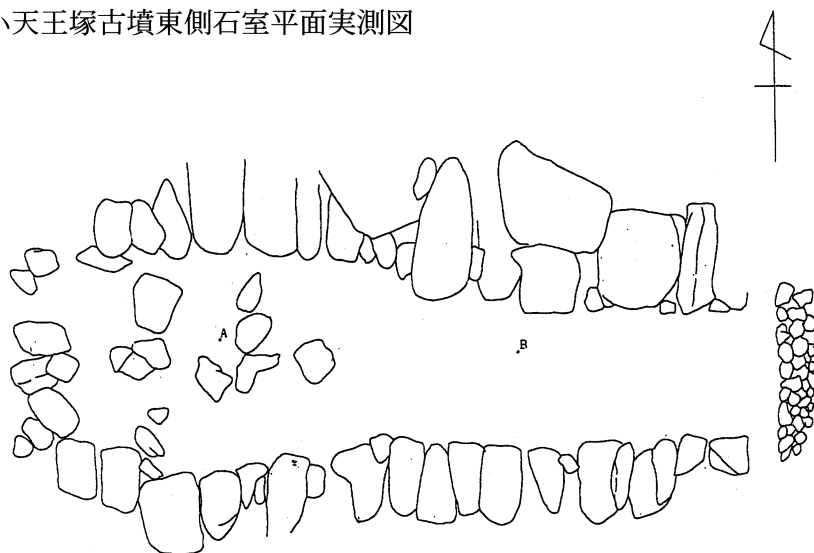
参考資料

下母神古墳群調査地区略図



(下母神古墳群現地説明会資料より)

小天王塚古墳東側石室平面実測図



小天王塚古墳石室概要

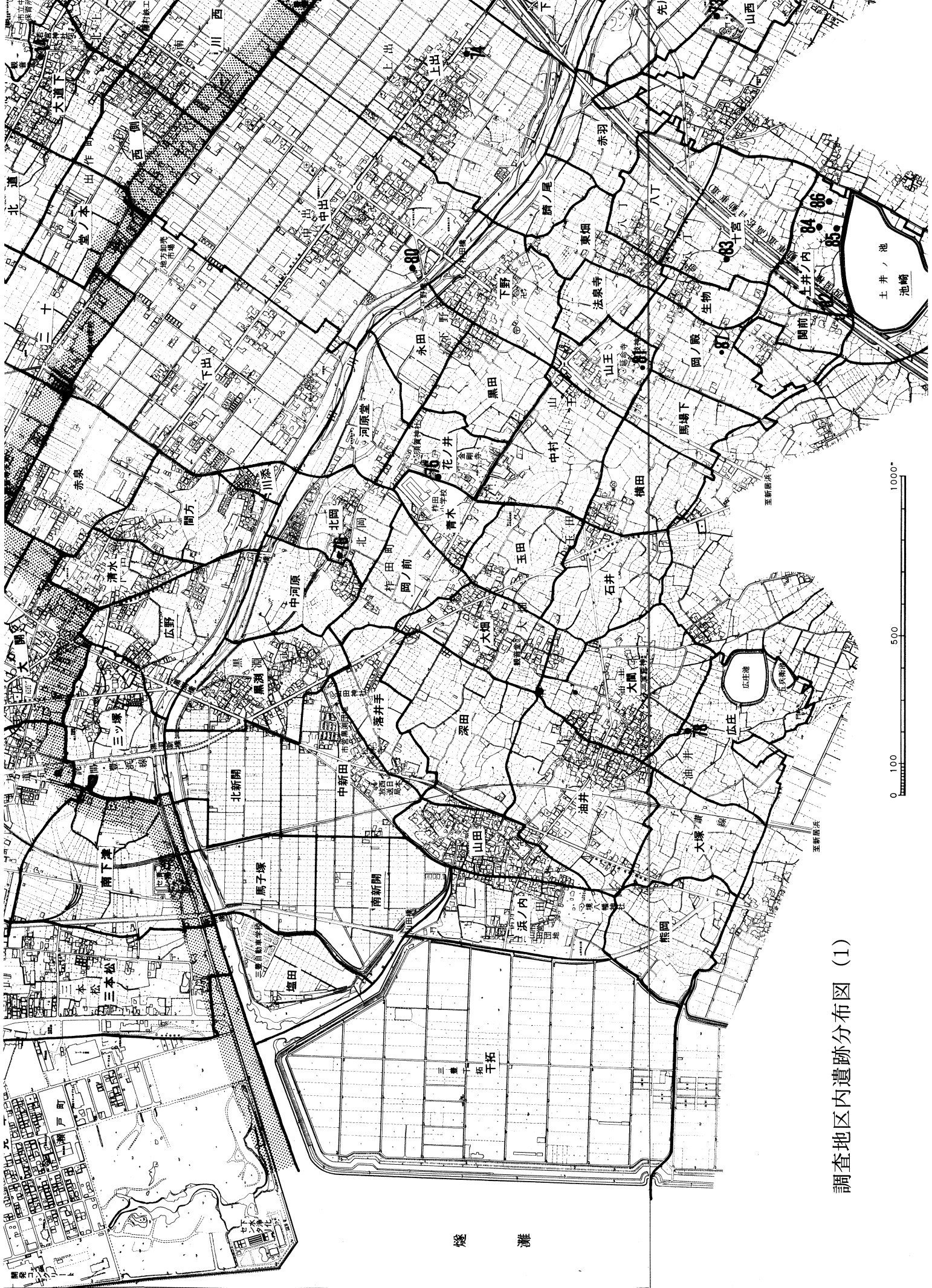
A 石組下 約 80cm (表柵用石の深さ)

B 石組下 約 60cm ()



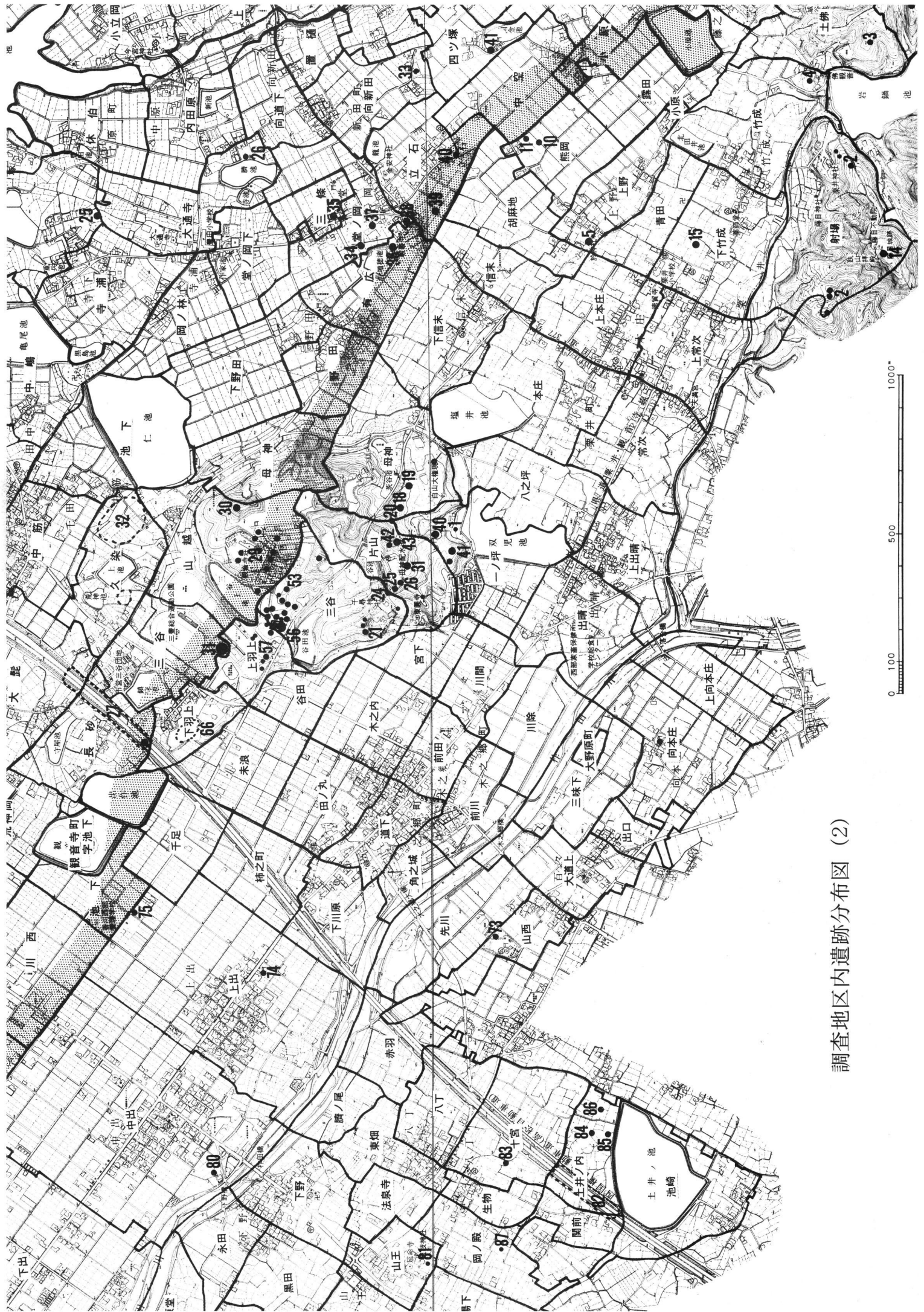
Table with columns: 出土遺物 (Excavated Relics), 遺物保管場所 (Relic Storage Location), 調査年度 (Investigation Year), 報告書 (Report), 参考文献・資料 (Reference Literature/Materials). Rows include items like 須惠器 (Bottle), 須惠器片 (Shards), 須惠器 (Bottle), etc., with their respective storage locations, investigation years, and references.

(A)
(B)
(C)
(D)
(E)
(F)
(G)
(H)
(I)
(J)
(K)
(L)



調査地区内遺跡分布図 (1)

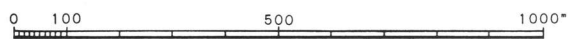
橋 塚



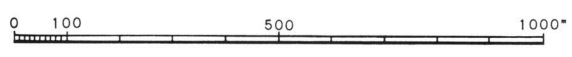
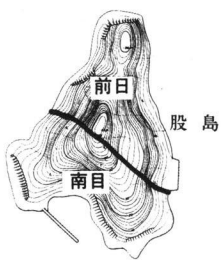
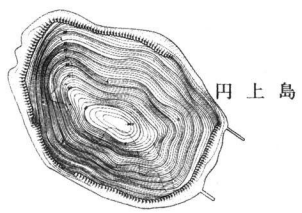
調査地区内遺跡分布図 (2)



調査地区内遺跡分布図 (4)



調査地区内遺跡分布図 (5)



4. 重点調査地区

(1) 重点調査地区の概要

本年の重点調査地区は粟井町、木之郷町部分の母神山古墳群を対象とした。なかでも、木之郷町字三谷・字上羽上地区に所在する遺跡の調査を実施した。当該地区は母神山古墳群の中でも中核的な場所に位置すると考えられるが、これまでこの地区について分布図も作成されてはいたが、特に瓢箪塚古墳以東の古墳の所在や数の点で不明確な部分が多く、今後の埋蔵文化財の保護の観点からも具体的な資料を把握しておく必要性があり、今回地形測量を中心に古墳の規模、数、残存状況を確認する調査を実施するに至った。

なお、調査地区内とその周辺の母神山古墳群には、主体部は未調査であるが前方後円墳に周溝や外堤を有し須恵質の円筒埴輪が出土している全長約4.4mの瓢箪塚古墳(6c前半)や一墳丘に2基の横穴式石室を有する直径約1.9mの円墳に周溝を有する上母神8号古墳(6c末～7c前葉)、直径約3.0mの円墳で複室構造の横穴式石室(全長9.8m)から銀製立飾や単鳳環頭大刀柄頭、三葉環頭柄頭、金銅製馬鈴が出土した罐子塚古墳などをはじめ、かつては約70基ほどの古墳群が形成されていた。

(2) 調査結果

これまでこの地区に所在する古墳は黒島林支群とされ黒島林〇〇号墳とされてきたが、実際は土地所有者が黒島神社ではなく数名の個人所有の民有地であることやその数が未確認のものがあること、また古墳名や位置についても資料により不明確な点が見られたが、今回の調査により古墳の数と位置をほぼ把握することができたので、古墳が所在する字名に基づき名称及び番号を再設定した。

以下に、各古墳の概要や特徴を記することにする。

(母神山古墳群(字三谷、字上羽上地区)地形測量図参照)

①三谷1号墳

最高所が標高約52.6mであり直径約1.7m(推定)、墳丘現存高約1.4mの円墳である。墳丘の中心部には南方向からの約5.5m×2.5mの盗掘坑があり、盗掘坑内には石室に用いられたとみられる石材は確認できないことにより主体部は少なからず影響を受けていると思われる。また、副葬品についても確認できなかった。

なお、墳丘の北側には約1.5m×4mほどの他では見られない平坦なスペースが存在するが、後世の開墾によるものかどうかは不明である。

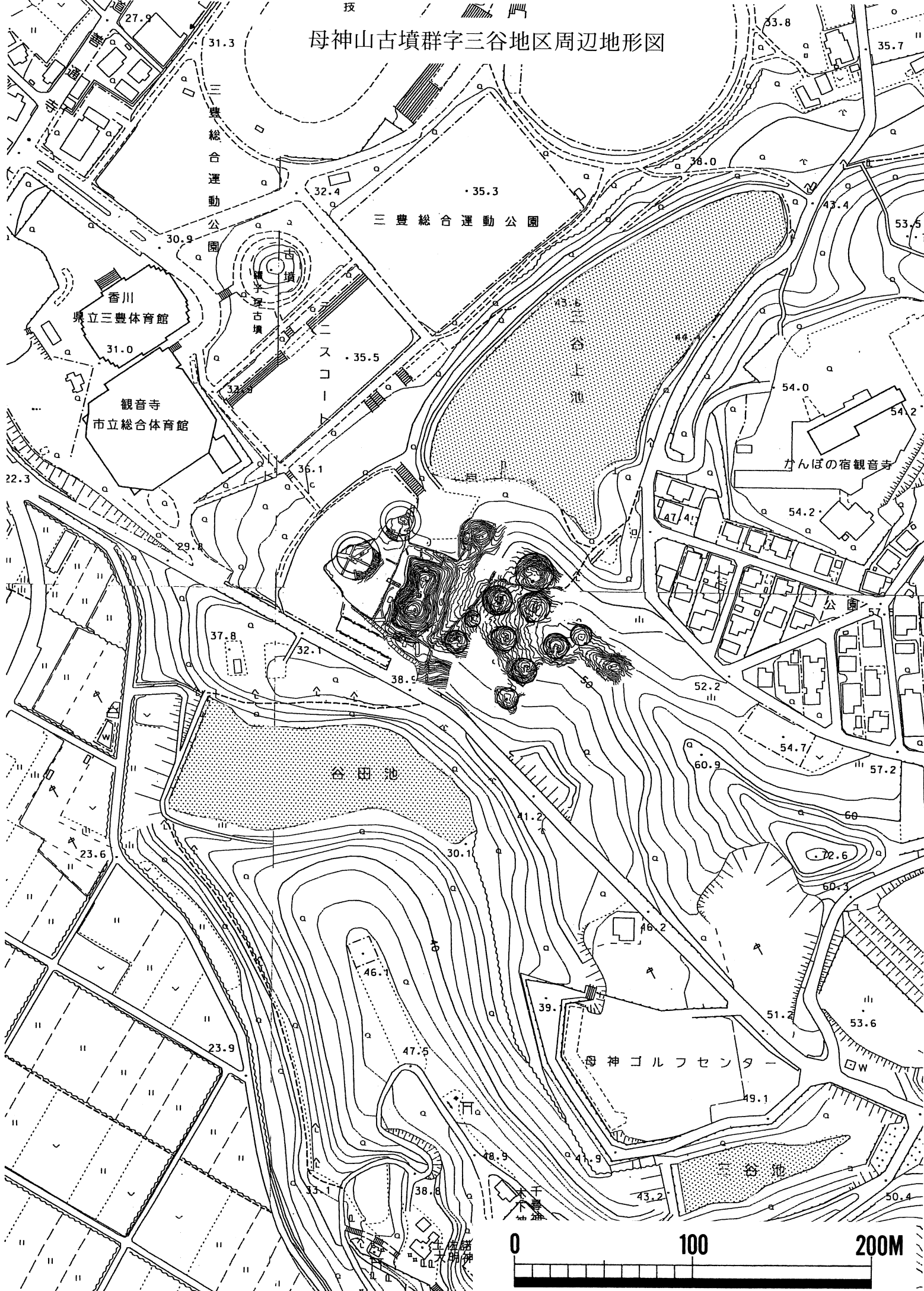
②三谷2号墳

1号墳から南西方向約8m離れた位置に所在する。最高所が標高約50.8mであり直径約1.7m(推定)の円墳とみられる。墳丘中心部には南方向からの約4m×2.5mの盗掘坑があるほか長径1.5mの円形の盗掘坑がある。また、墳丘の南側については開墾によるものと思われる地形変更を受けており墳丘とそれ以外のものとの区別ができない状態である。

③三谷3号墳

最高所が標高50.8mあり直径約2.2m(推定)、墳丘現存高約3.2m(推定)の円墳である。墳丘中心部のやや南寄りに径約2mの盗掘坑がある。また、この場所はミニ四国八十八ヶ所の第65番札所となっていることや後世の盗掘等により影響を受けているものか墳丘中央部が窪んだ状態と

母神山古墳群字三谷地区周辺地形図



なっている。しかし、大きく地形が変更されていない状態であるので、主体部には盗掘が及んでないものと思われる。

④三谷4号墳

3号墳に接し少し高い位置に造営されている。最高所は標高約51.4mあり直径約18m（推定）の円墳である。墳丘中央部には南方向からの約7m×2.5mの盗掘坑がある。1号、2号墳と同様に盗掘坑からは石室の石材は確認できない。墳丘の北側については長さ約10mに渡り通路や土取りにより削られたとみられる地形となっている。

⑤三谷5号墳

2号墳の北西側約5m離れた所に位置する。最高所は標高約50.4mであり、直径約16m（推定）の円墳である。墳丘中央部には約3m×1.5mの浅い盗掘坑がある。墳丘東側には周溝状の地形が一部残存している。

⑥三谷6号墳

3号墳から約7m、4号墳から約3m、5号墳からは約6mの距離の所にある。最高所は標高約50.2mあり、直径約16m（推定）、墳丘現存高約2.4mの円墳である。墳丘中央部には約5m×4.5mの盗掘坑があり深さは約1.4mあり、広さ深さともこの地区では最大のものとなっている。他に、墳丘中央部からやや南寄りのところに約2.5m×1.3mの盗掘坑も存在する。このどちらからも石室の石材は確認されなかった。

⑦三谷7号墳

墳丘の半分が失われている。最高所は標高約47.6mあり、直径約13m（推定）の円墳である。瓢箪塚古墳に最も近く、後円部側の周溝に約5mしか離れていない。

⑧三谷8号墳

1号墳から北東方向約2.5mの非常に近いところに位置する。最高所は約51.8mで直径約11m（推定）の円墳である。マウンドは他のものに比べ低く約1m程度である。

⑨三谷9号墳

2号墳の南西側に山道をはさんで位置し、最高所が約48mある。地形の変更が著しいが直径約14m（推定）の円墳と思われる。

⑩三谷10号墳

最高所が約53.6mあり、墳丘現存高は約2.6m程度のものである。墳形については開墾等により地形変更されてはいるが前方後円墳の可能性が高い。特に、墳丘の北側については後円部からくびれ部、前方部にかけてのラインがその地形から観察できる。ただし、前方部の形状が明瞭ではなく、断定しがたい点もある。今後、詳しい調査の機会を待ちたいが、仮に前方後円墳でありとするなら推定全長25mはあるのではないだろうか。墳丘南側については激しく削られている。盗掘坑は一方所長径約2.5mの円形のものがある。

⑪三谷11号墳

瓢箪塚古墳の北東側に所在する。墳丘の一部が削平されているが前方後円墳あるいは双円墳の可能性が高い。現存長は約18mである。10号墳同様今後の詳しい調査の機会を待ちたい。

⑫三谷12号墳

最高所が約48.2mあり、直径約8m(推定)の円墳と思われる。墳丘中央部に径約1mの円形の浅い盗掘坑がある。マウンドは8号墳と同様に低く約1m程度である。ミニ四国の第63番札所が設けられている。

(3) まとめ

以上、今回確認した三谷地区の12基の古墳の概要を記した。この数の古墳が集中して存在するのは母神山古墳群のなかでも他に見当たらない。母神山の標高72.6mをひとつの頂点として北西方向に細く延びる尾根が10号墳をすぎる付近で緩やかに広がり始めるあたりに集中して古墳が営まれている。その多くは程度の差はあれ盗掘や開墾によるものと思われる地形の改変を受けているのが現況である。特に、盗掘坑は1号、2号、4号、6号で大きなものが認められ、最大のものは6号で主体部は深刻な影響を受けていると思われる。また、開墾によるものと考えられるのは、7号、9号、10号であり、7号は墳丘の半分が失われている状況である。それぞれの盗掘坑を観察すると石室の石材と思われるものや副葬品等が皆無と言っていいほど確認されない。盗掘の程度にもよると思うが、石垣や水路建設のためにすべて抜き取られたものか、あるいは石室まで達していないのか、現段階では後者の方を願いたい。

石室の石材や副葬品が確認できないことにより個々の埋葬施設がどのようなものであるかや築造、埋葬時期を考察できる材料は得られていない。よって、瓢箪塚古墳との前後関係や12基の古墳がどのような時期や順序あるいは性格を持ち築造されたかは今後に残された大きな課題である。

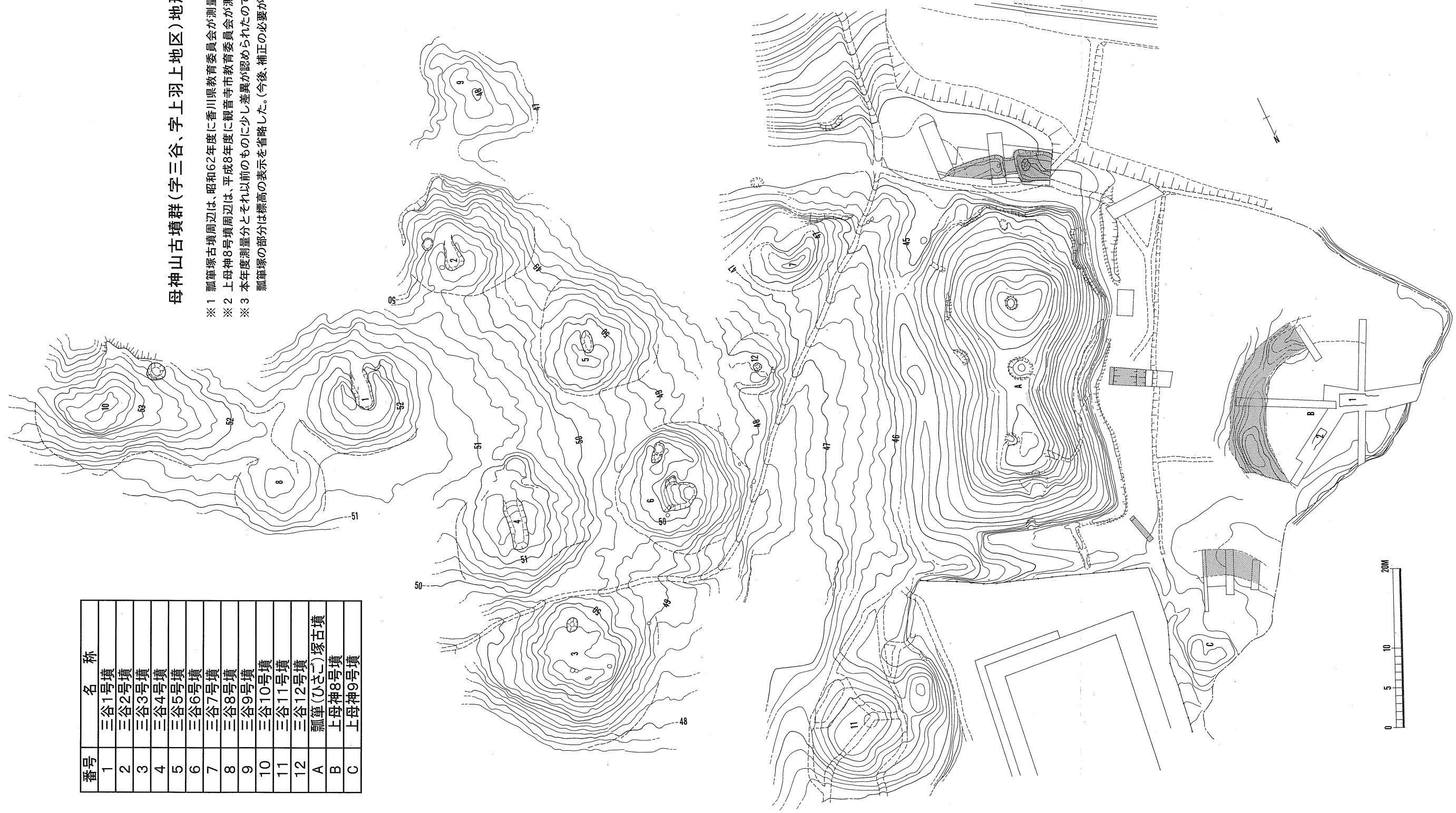
また、前方後円墳がこれまでは瓢箪塚古墳のみであることされてきたが、新たに10号墳、11号墳についてはその可能性が考えられる。今回は地形測量のみであったので今後の発掘調査の機会を待ち確認すべき事項である。

最後に、母神山古墳群についてはこれまで簡易保養施設や運動公園の建設、住宅地開発や民間企業の各種開発が行われ多くの古墳が記録保存や移築保存等が行われたものの現状保存ができないままに失われてきた現実がある。今回、調査対象にした瓢箪塚古墳を中心とした字三谷、字上羽上地区に所在する古墳は母神山古墳群の形成過程で中核的な役割を果たした人物群の墓域であることやその学術的価値は誰もが認めるところであろう。そのような重要な意味を持つ本地域の遺跡の保護施策については、特に慎重を期すべきであると考ええる。

番号	名称
1	三谷1号墳
2	三谷2号墳
3	三谷3号墳
4	三谷4号墳
5	三谷5号墳
6	三谷6号墳
7	三谷7号墳
8	三谷8号墳
9	三谷9号墳
10	三谷10号墳
11	三谷11号墳
12	三谷12号墳
A	瓢箪(ひさご)塚古墳
B	上母神8号墳
C	上母神9号墳

母神山古墳群(字三谷、字上羽上地区)地形測量図

- ※1 瓢箪塚古墳周辺は、昭和62年度に香川県教育委員会が測量したものをを使用した。
- ※2 上母神8号墳周辺は、平成8年度に観音寺市教育委員会が測量したものをを使用した。
- ※3 本年度測量分とそれ以前のものに少し差異が認められたので等高線のつなぎ目は破線で示し、瓢箪塚の部分は標高の表示を省略した。(今後、補正の必要がある。)



5. 写真目次

	頁
1. 母神山古墳群 三谷1号墳	【遺跡一覧番号44】 (北東側から撮影) 22
2. 母神山古墳群 三谷2号墳	【遺跡一覧番号45】 (北側から撮影)
3. 母神山古墳群 三谷3号墳	【遺跡一覧番号46】 (南南東側から撮影)
4. 母神山古墳群 三谷4号墳	【遺跡一覧番号47】 (南側から撮影)
5. 母神山古墳群 三谷5号墳	【遺跡一覧番号48】 (東南東側から撮影)
6. 母神山古墳群 三谷6号墳	【遺跡一覧番号49】 (北北東側から撮影)
7. 母神山古墳群 三谷7号墳	【遺跡一覧番号50】 (北北西側から撮影) 23
8. 母神山古墳群 三谷8号墳	【遺跡一覧番号51】 (西南西側から撮影)
9. 母神山古墳群 三谷9号墳	【遺跡一覧番号52】 (北北東側から撮影)
10. 母神山古墳群 三谷10号墳	【遺跡一覧番号53】 (北西側から撮影)
11. 母神山古墳群 三谷11号墳	【遺跡一覧番号54】 (北東側から撮影)
12. 母神山古墳群 三谷12号墳	【遺跡一覧番号55】 (西側から撮影)
13. 母神山古墳群 真鍋塚古墳	【遺跡一覧番号40】 (南側から撮影) 24
14. 母神山古墳群 久保田塚古墳	【遺跡一覧番号41】 (西側から撮影)
15. 母神山古墳群 名所塚古墳	【遺跡一覧番号43】 (北側から撮影)
16. 母神山古墳群 上母神1号墳	【遺跡一覧番号57】 (北西側から撮影)
17. 母神山古墳群 上母神3号墳	【遺跡一覧番号59】 (南側から撮影)
18. 藤目山古墳 (1)	【遺跡一覧番号 2】 (南側から撮影)
19. 藤目山古墳 (2)	【遺跡一覧番号 2】 (北側から撮影) 25
20. 藤目山古墳出土須恵器 (観音寺市郷土資料館蔵)	
21. 岩鍋遺跡遠景	【遺跡一覧番号 9】 (北側から撮影)
22. 上野古墳	【遺跡一覧番号 5】 (北西側から撮影)
23. 乳若屋敷跡	【遺跡一覧番号15】 (南東側から撮影)
24. 母神山古墳群 久米塚古墳	【遺跡一覧番号18】 (羨道から玄室方向)
25. 母神山古墳群 久米塚古墳	【遺跡一覧番号18】 (玄室から羨道方向) 26
26. 母神山古墳群 久米東塚古墳	【遺跡一覧番号19】 (羨道から玄室方向)
27. 母神山古墳群 久米東塚古墳	【遺跡一覧番号19】 (玄室部の状況)
28. 母神山古墳群 上母神8号墳	【遺跡一覧番号64】 (第1石室第2床面)
29. 母神山古墳群 上母神8号墳	【遺跡一覧番号64】 (第1石室第1床面)
30. 母神山古墳群 上母神8号墳	【遺跡一覧番号64】 (第2石室第2床面)
31. 母神山古墳群 上母神8号墳	【遺跡一覧番号64】 (第2石室第1床面) 27
32. 油井の高塚の跡	【遺跡一覧番号78】 (南側から撮影)
33. 油井の高塚出土の円筒埴輪 (観音寺市郷土資料館蔵)	
34. 小天王塚古墳	【遺跡一覧番号84】 (東側から撮影)
35. 土井之内丙223番地塚	【遺跡一覧番号86】 (南側から撮影)
36. 陶印出土地	【遺跡一覧番号83】 (北東側から撮影)



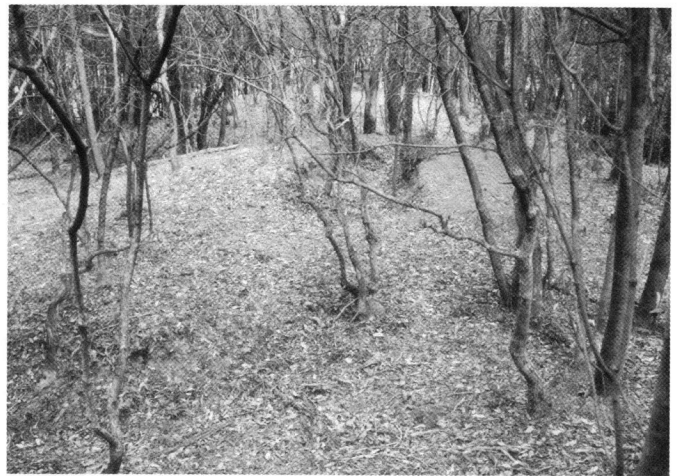
1. 母神山古墳群 三谷1号墳



2. 母神山古墳群 三谷2号墳



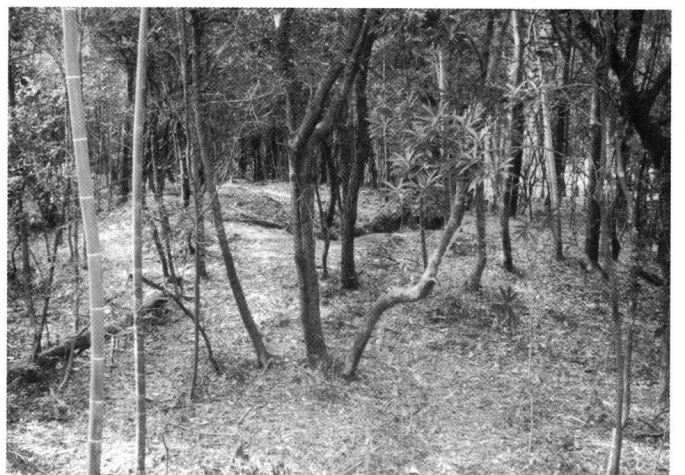
3. 母神山古墳群 三谷3号墳



4. 母神山古墳群 三谷4号墳



5. 母神山古墳群 三谷5号墳



6. 母神山古墳群 三谷6号墳



7. 母神山古墳群 三谷7号墳



8. 母神山古墳群 三谷8号墳



9. 母神山古墳群 三谷9号墳



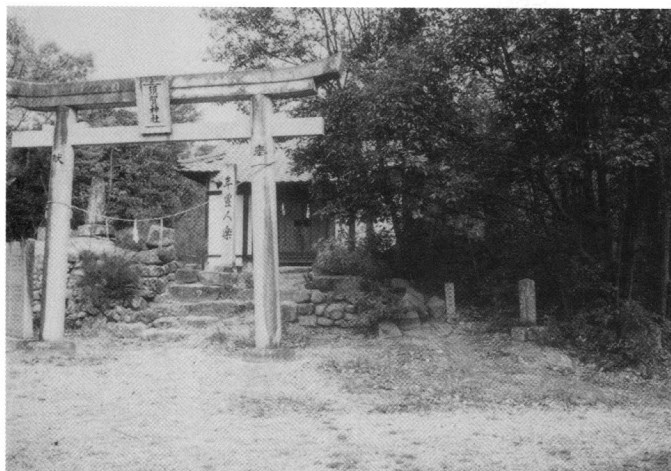
10. 母神山古墳群 三谷10号墳



11. 母神山古墳群 三谷11号墳



12. 母神山古墳群 三谷12号墳



13. 母神山古墳群 真鍋塚古墳



14. 母神山古墳群 久保田塚古墳



15. 母神山古墳群 名所塚古墳



16. 母神山古墳群 上母神1号墳



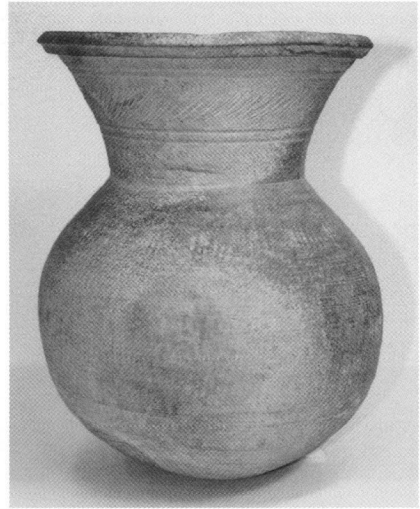
17. 母神山古墳群 上母神3号墳



18. 藤目山古墳(1)



19. 藤目山古墳(2)



20. 藤目山古墳出土須恵器



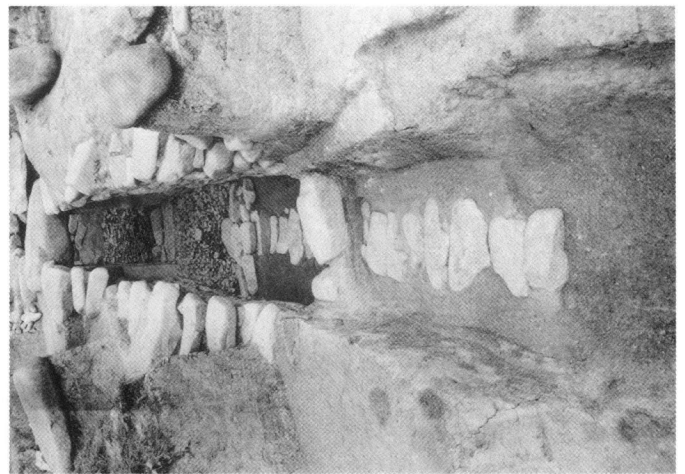
21. 岩鍋遺跡遠景



22. 上野古墳



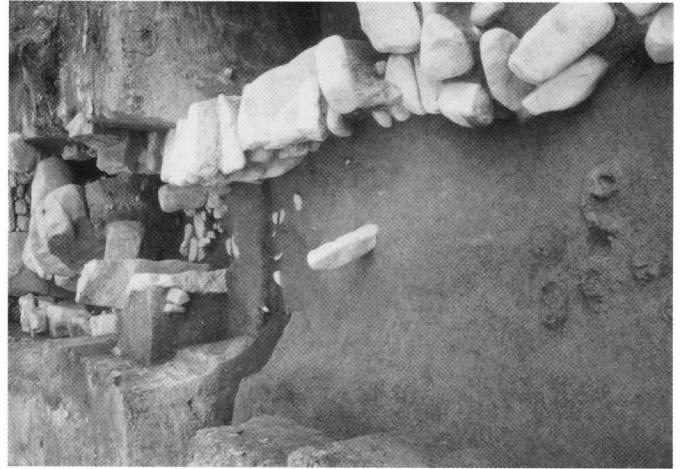
23. 乳若屋敷跡



24. 母神山古墳群 久米塚古墳



25. 母神山古墳群 久米塚古墳



26. 母神山古墳群 久米東塚古墳



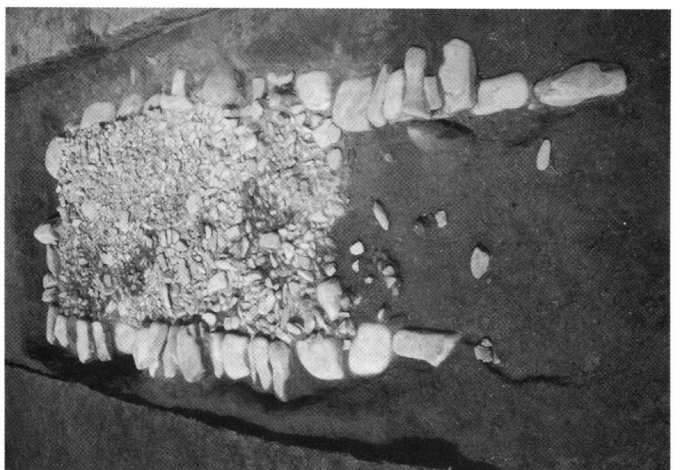
27. 母神山古墳群 久米東塚古墳



28. 上母神8号墳 (第1石室第2床面)



29. 上母神8号墳 (第1石室第1床面)



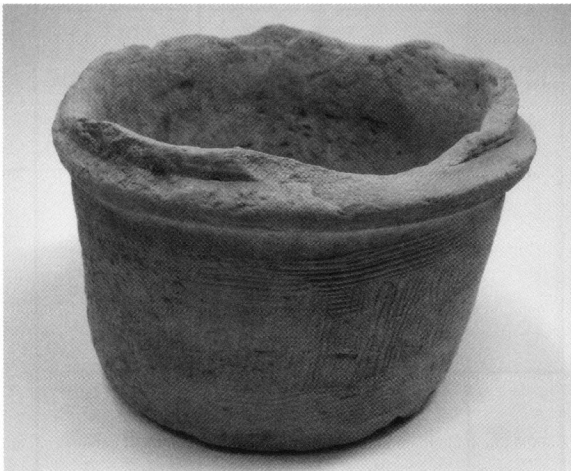
30. 上母神8号墳 (第2石室第2床面)



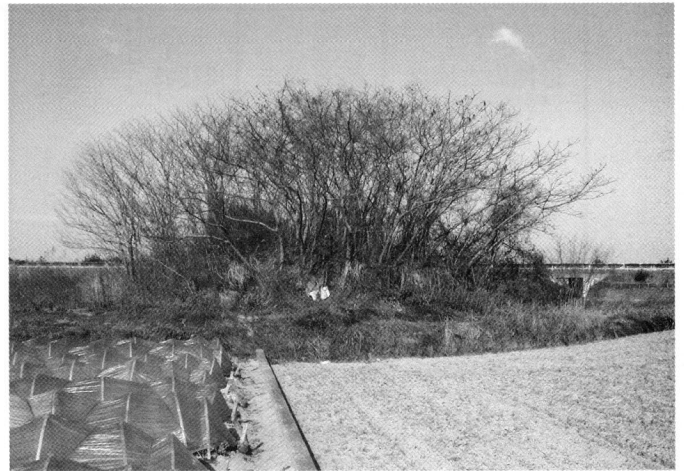
3 1. 上母神8号墳 (第2石室第1床面)



3 2. 油井の高塚の跡



3 3. 油井の高塚出土の円筒埴輪



3 4. 小天王塚古墳



3 5. 土井之内丙223番地塚



3 6. 陶印出土地

報告書抄録

ふりがな	かんおんじないせきはつちようさがいようほうこくしょ							
書名	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書							
副書名	平成15年度国庫補助事業報告書 丸山古墳周辺試掘調査報告書 詳細分布調査概要報告書Ⅲ							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	観音寺市教育委員会事務局 生涯学習課 総括主査 久保田昇三							
編集機関	観音寺市教育委員会							
所在地	〒768-8601 香川県観音寺市坂本町1丁目1番1号 TEL 0875-23-3943							
発行年月日	西暦 2004年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はがみやまこふんぐん 母神山古墳群 みたにいちごうふん 三谷1号墳 ゝ みたにじゅうごうふん 三谷12号墳	かんおんじし 観音寺市 きのごう 木之郷町字三谷 488-1,488-2 488-18,483 488-11,484 485-2,486	37205		34度 6分 16秒	133度 41分 29秒	20031105~ 20040130	約12,240 (地形測量)	観音寺市内遺跡 発掘調査事業
まるやまこふん 丸山古墳	かんおんじし 観音寺市 むろもと 室本町字西丸山 691番	37205		34度 8分 43秒	133度 39分 5秒	20030620~ 20030702	20.63 (試掘調査)	電気通信施設 (携帯・自動車電話) 建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
母神山古墳群 三谷1号墳 ゝ 三谷12号墳	古墳	古墳	古墳12基	不明	・母神山古墳群内にあり、全長約44mの墳丘に周溝を有する瓢箪塚古墳（前方後円墳）の東側に所在する古墳群			
丸山古墳	古墳	古墳	古墳1基	鉄刀、鉄剣、円筒埴輪、形象埴輪（馬形埴輪など動物埴輪）など	・直径約35mの古墳時代中期（5c中葉～後半）の円墳 ・埋葬施設 縦約4m（現存長）×横約3.7（推定長）mの横穴式石室に阿蘇溶結凝灰岩製刳抜き舟形石棺が埋納されている。			

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書
平成15年度国庫補助事業報告書

丸山古墳周辺試掘調査報告書
詳細分布調査概要報告書Ⅲ
2004（平成16）年3月31日発行

編集・発行 観音寺市教育委員会
〒768-0067
香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号
電話 (0875) 23-3943
FAX (0875) 23-3925

印刷 株式会社 三和